

大山の森だより

2024年冬号

ぼんがいちによ
梵我一如

2024年は、日本で自然保護憲章が制定されて50周年となる記念の年でした。その自然保護憲章制定のきっかけになった場所が、仏教の聖地でもある大山というのは感慨深いものがあります。

仏教の開祖である釈尊は、宇宙の真理を「無常と無我＝空」と説きました。変化して止まない環境とその環境との関係性においてしか、すべては存在しえないという真理です。その悟りから得られる「梵我一如」の境地が釈尊の目指すところです。

「梵」とは宇宙(世界)の根本的な原理のことで、「梵我一如」とは宇宙(世界)と個人は一つ(分けられない同じもの)という意味です。宇宙(世界)を自然と置き換えてもよろしいかと思えます。

私たちを取り巻く自然は互いに影響を受け合って存続しており、常に変化しています。そして私たち人類も自然の一部であり、自然保護とは私たち人類の存続のための活動でもあります。

大山の自然は仏教の聖地として永く守られてきました。そして今後も守られていくべき自然があります。その自然を自分自身と感じられた時、自然保護を通して「梵我一如」の境地が得られるかもしれませんよ。

2025年も国立公園大山へのお越しをお待ちしております。



秋季 自然ふれあい事業 活動報告

○奥大山木谷沢 溪流の森と草原観察会



開催日：9月8日
木谷沢は標高760メートル。大山の南斜面の美しい溪流美が楽しめる人気のスポットです。さまざまな巨樹が多くみられるエリアで、溪流の涼やかな風に癒されながら、溪畔林と周辺の森、草原の植物を観察しました。

○秋の木の实草の実観察会

開催日：9月28日

参加者は様々な種を探すビンゴゲームをしながら歩きました。植物がいろいろな方法で種を散布していることに感心。種だけでなく秋の花々も観察し、ようやく涼しくなった大山の秋を楽しみました。



○大山寺 阿弥陀堂周辺の知られざる遺跡を探る



開催日：10月26日
紅葉が進む大山の森で、忘れられた僧房跡を巡り、古い時代の大山回峰行の道を探りました。僧房跡には茶碗などの欠片も残されており、在りし日の大山寺の姿を偲びました。

○奥大山古道ウォーク ※奥大山古道協議会との共催事業



開催日：11月10日
大山寺参拝に1000年以上前から使用されていた古道を、約50名が5班に分かれて歩きました。紅葉の時期が遅れて色づきはまいちだったものの、好天に恵まれさわやかなウォーキングとなりました。最後に神楽も鑑賞。

※季節ごとに自然観察会などのイベントを開催しています。裏面にイベント情報を掲載しています。



冬眠



大山に寒い冬がやってきました。

大山ナショナルパークセンターがある標高800メートル付近は、通常12月下旬から3月上旬にかけて深い雪に覆われます。この寒く厳しい季節を一部の動物(哺乳類)は「冬眠」でやり過ごします。

冬眠とは、恒温動物である哺乳類が体温を低下させて食料の少ない冬季間を過ごす生態のことを言います。

※昆虫や変温動物である両生類・爬虫類などが、冬季に活動を著しく低下させて過ごす「冬越し」も冬眠と呼ばれます。

Q

大山には様々な哺乳類が生息しています。

下記の中で冬眠する動物はどれでしょう？ ※左から大きさ順



イノシシ・シカ・キツネ・タヌキ・アナグマ・テン・リス・ヤマネ・アカネズミ

A

この中で冬眠する動物は**アナグマ**と**ヤマネ**の2種類です。



大山寺で見かけたアナグマ

アナグマは地下に大規模な巣穴をつくるタヌキほどの大きさのずんぐりした動物です。オスは単独、メスは家族を中心とした集団で暮らしています。地上でミミズや果実などを探し、冬の前に食いだめして巣穴に籠ります。冬の間は分厚い皮下脂肪を消費して過ごしますが、温暖な地域のアナグマは冬眠しないこともあるそうです。体温の低下はしていないそうなので完全な冬眠とは言えないのかもしれませんが。ちなみにクマの仲間ではなくイタチの仲間です。冬眠した翌年、平均気温が10度を超えると活動をはじめると言われています。春先は博労座駐車場横の芝生や大山観光道路横の草原でミミズを探して土を掘り返している姿をよく見かけます。

ヤマネはしっぽに短い毛が生えたネズミのような生き物で、ほぼ樹上で生活しています。完全に夜行性なので見かけることはまずありません。木の枝にぶら下がりながら木の実や昆虫を捕食します。冬になると体温を0度近くまで低下させ、木の洞や落ち葉の中などで丸まって冬眠します。平均気温が9度以下になると冬眠に入るそうなので、大山ナショナルパークセンター周辺の森にすむヤマネは12月ごろから4月ごろまで冬眠していることとなります。厳冬期の森をスノーシューで散策中に、立ち枯れの木の洞で冬眠中のヤマネを発見したことがあります。間近で観察してもピクリとも動きませんでした。冬季に目が覚めてしまうと餓死してしまうそうなので、見つけても絶対に触らないこと。ヤマネは国の天然記念物で準絶滅危惧種に指定されています。



大山自然歴史館で保護されたヤマネ(冬眠中)

大山のツキノワグマ

冬眠する哺乳類としてよく知られているのはクマです。大山がある中国地方にはツキノワグマという小型のクマが多数生息しています。大山事業地には春から秋にかけてクマに関する問い合わせがかなりあります。毎年、大山でクマの目撃情報がありますが、大山にはクマは生息していないと言われています。目撃されたクマは中国山地から移動してきた個体で、冬の前には大山から出て行ってしまいうようです。大山にクマが生息(定着)しない理由は、大山には冬眠に適した洞のある大木が無いからとも言われていますが、実際にはよくわかりません。

山地湿原の再生と絶滅危惧種「ウスイロヒヨウモンモドキ」の復活を目指して

○鏡ヶ成の湿原草原再生の取り組み



鏡ヶ成は大山の南麓、烏ヶ山(1448m)、象山(1085m)、擬宝珠山(1110m)に囲まれた平たい皿のような高原です。鏡ヶ成とは方言で「鏡の様に平たい」様を意味します。

この標高920メートルの高原には、大山では珍しい山地湿原があり、湿原の周辺には様々な植物が生育する草原が広がっています。戦後、植林地や牧場への転換が計画されましたが、1962年に国民休暇村が開業。大山隠岐国立公園内の主要な利用施設として活用されています。

鏡ヶ成の湿原は、周囲の斜面から流入した豊富な融雪水が凹地や平坦地に滞留して形成される地下水涵養型湿原です。鏡ヶ成のような山地湿原は、周辺斜面から絶えず土砂が流入するため乾燥化が進み、最終的には草原化します。さらに戦前から水路を掘るなど乾燥化が図られ、草原化が急速に進んでいました。

鏡ヶ成では、縮小傾向にある湿原の再生と、多様な草原植物の回復を目的に、湿原草原再生の取り組みが行われています。



鏡ヶ成の取り組みでは、湿原の再生を目指し、水位を上げるための堰作りや、湿原に入り込んだ笹や灌木の除去を行っています。また湿原周辺のススキ原の一部では火入れや刈払いを行い、多様性のある草原の再生を目指しています。

草原の一部ではオミナエシの移植も行っています。秋の七草で知られるオミナエシは、以前は日本の多くの草原で見られる普通種でしたが、草原に人の手が入らなくなってから急速に姿を消し、鏡ヶ成でも少なくなっていました。

またオミナエシは環境省レッドリスト絶滅危惧 I A類に指定されている草原棲のチョウ、ウスイロヒヨウモンモドキの食草でもあります。ウスイロヒヨウモンモドキはタテハチョウ科の小型(開張35~45ミリ)のチョウで、橙色の地に不規則に黒褐色の複数の条線が走る翅が特徴です。

かつては中国山地の草原で見られたウスイロヒヨウモンモドキは、現在、岡山県の一部だけで見られるだけになりました。ウスイロヒヨウモンモドキが復活できるかどうかは未確定ですが、さまざまな植物が生育する草原湿原が復活すれば可能性はあります。

※ウスイロヒヨウモンモドキは、捕獲等が禁止されている国内希少野生動植物種です。

※山地湿原とは、山地の斜面や凹状地・河口沼沿いに発達する湿性草原を指します。





1977年撮影 松岡嘉之氏提供

コラム:山野の野焼き(火入れ)

かつて人家周辺の採草地では春先に野焼きを行っていました。これは草の中に住む害虫を焼き殺すだけでなく、若草の育ちを良くする効果があります。また木本植物を枯らすので、草原の維持が簡単になります。大山の周辺では蒜山高原などでも伝統的な野焼き(火入れ)が行われています。

イベント情報 (1月~2月)

■自然公園財団のイベント

<p>○スノーシューで行く 大山・幻の滝(稚児滝) 開催日: 1月18日(土) 9:00~12:00頃 会場: 大山寺駐車場下 豪円山周辺 集合場所: 自然公園財団事務所前 参加費: 1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	 <p>かつて呼瀧山と呼ばれた豪円山。その幻の滝を見に行きます。垂直の岩壁に張り付く氷が神秘的な美しさ。大山の隠れた名所です。スノーシュー歩行距離約2キロ。定員15名 自然観察</p>
<p>○スノーシューで行く 願掛け地蔵へ願いを込めに 開催日: 2月2日(日) 9:00~12:00頃 会場: 大山寺 金門・寂静山周辺 集合場所: 自然公園財団事務所前 参加費: 1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>かなえない願いはありますか? 大山に伝わる願掛けの方法で願掛け岩とそのそばに佇む地蔵まで願いを込めに行きましょう。スノーシュー歩行距離約2・5キロ。定員15名 歴史探訪 癒しの体験</p> 
<p>○スノーシューで行く 幻の参詣道・旧上横手道 開催日: 2月15日(土) 9:00~12:00頃 会場: 大山寺 阿弥陀堂・小鳥の道周辺 集合場所: 自然公園財団事務所前 参加費: 1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>山陽方面から大山寺へ向かう参拝者が歩いた横手道は、かつては現在の道より上の方を通っていました。はるか昔に使われなくなった参道をスノーシューで歩きます。スノーシュー歩行距離約3キロ。定員:15名 歴史探訪</p>

❄️ 冬季駐車場情報 ❄️

12月21日(土)に、だいせんホワイトリゾートが「スキー場開き祭」を開催。

駐車場料金(税込・1日)		14時以降	17時以降
屋外駐車場 (4ヶ所: 第1、2、4、南光)	650台	全日: 1,000円	700円
屋内駐車場	310台	土日祝: 1,500円	屋内駐車場の連続して使用する 2日目以降は1,000円です
		平日: 1,000円	

スキー場オープン期間中は、大山ナショナルパークセンター周辺の駐車場がすべて有料になります。

駐車場に関するお問い合わせは、大山観光局(0859-52-2502)へ

※植原駐車場から大山ナショナルパークセンター横までシャトルバスを運行! 【上り8:00~ 下り~18:00】

利用料金(往復): 大人500円 子ども(小学生~中学生)200円 幼児無料

基本は年末年始、土日祝に運行。12月28日から2月24日まで

運行日等のお問い合わせは、だいせんホワイトリゾート(0859-52-2315)へ

一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地

〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター(大山 NPC) 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370



ホームページ QR コード

URL <http://www.npfj.or.jp/daisen/>

※ホームページのアドレスが上記に変わりました



一般財団法人

自然公園財団

Natural Parks Foundation